

教育民生常任委員会調査報告

教育交流協定書を締結した

よみ たん そん 沖縄県読谷村を視察調査

異なる伝統文化に触れる交流は視野を広げる好機、
より多くの子どもたちが参加できるように検討を！

伯耆町議会教育民生常任委員会（幸本委員長以下七委員）は、平成二十六年十月二十五日から同月二十七日まで、沖縄県読谷村にて行政調査を行った。

沖縄県読谷村の概要

沖縄県本島中部、西海岸に位置し、東シナ海に力ギ状に突き出た半島で、西は東シナ海に面し、北は景勝「残波岬」に囲まれた美しい自然と豊かな伝統文化に育まれた村である。

人口約四万人、世帯数約一万四千八百世帯で、日本の村としては一番人口が多く、面積約三十五平方キロメートルのうち三六％を米軍施設が占めている。

交流の経過と

成果について

平成十六年からの旧溝口町内と読谷村渡慶次自治会の子ども会同士の交流を契機に、溝口中学校が修学旅行時に訪れている。



溝口中学校修学旅行

子ども会が中心の交流をさらに継続・発展させるよう両町村は平成二十六年一月十五日、教育交流協定を交わした。

交流も十二年目。両町村の多くの子どもや大人が参加している。

子ども達は自然環境や生活・文化の異なる地域間交流を通して、幅広い視野を持つようになった。

渡慶次自治会との意見交換会について

本町教育委員会とともに、渡慶次自治会との意見交換会を行うなかで、出された課題や意見。

①交流事業の成果は見えにくい。双方の文化の違いを発見し、地域を大切に思う人材育成は重要。

②長期的展望に立ち、幅広い交流が望まれる。

③伯耆町からの子ども参加が少な

くなっており、今後の大きな課題である。

④読谷村からでなく、渡慶次区から七、八十万円の助成金を出している。

⑤伯耆町の家計の経費も増えている。家庭頼みでない交流事業への支援を望みたい。

⑥四十周年「読谷村まつり」に招待され、村全体が伝統・文化を大切にされていると強く感じた。



渡慶次自治会との意見交換会

調査のまとめ

①教育交流協定の締結により、これまで交流で培った絆を、より深めることができる。

②協定を実効あるものとするため、より多くの子ども達が参加できるように仕組み、仕組みを検討する必要がある。

③交流には多額の費用が掛かる。何らかの助成策の必要がある。

④異文化に触れる交流は視野を広げる良い機会。

将来的には大人を含め全町での交流が望まれる。



読谷村まつり巨大ステージ前 正装かりゆし